



SDGsのゴールが書かれた朝日新聞社の副教材「ペタッとSDGs新聞学習ふせん」を使って学ぶ児童

古着から SDGs 考えたよ 我孫子・新木小で「出張授業」

我孫子市立新木小学校で2月20日、新聞社の仕事を学び、ファッショングループSDGs（持続可能な開発目標）について理解を深める授業があった。日本リユースシステム（東京都港区）と朝日新聞社が協業している「古着deワクチン」というビジネスをファッショングループのテーマに選び、両社の社員が登壇した。

我孫子市で朝日新聞が試行的に実施しているSDGs授業で、今年度3校目。5年生（約50人）が受講した。1コマ目は、朝日新聞ブランド・プロモーション部の社員2人が講師になり、取材経験を語った。新聞が印刷され、各戸に配達される流れも説明した。児童はその後、2月12日付の朝日小学生新聞を手に取り、ペットボトルを再び新しいペットボトルに再生する「ボトルtoボトル」を扱った1面記事「同じものに再生で「減らす」」を読み、SDGsの17のゴール（目標）との関係についての話を考察した。朝日新聞の副教材「ペタッとSDGs新聞学習ふせん」に意見を書き、記事に貼り付けて発表した。

2コマ目で取り上げた「古着deワクチン」は、日本の古着をカンボジアなどに輸出して販売し、再利用するビジネス。利益の一部をポリオワクチンとして寄付し、途上国の子どもの命を救っている。これまでに約4981万着分の衣類が再利用され、約628万人分のワクチンを寄付してきた。この日は、児童が持ち寄った古着を講師が手に取り、輸出できる根拠を説明。持続可能なファッショングループをめざすねらいを話した。志田絢華さん（11）は「SDGsは難しいと思っていたけど、古着の寄付がSDGsにつながると知って身近に感じました」。小林樹生さん（11）は「SDGsの目標達成のための具体的な取り組みを知ることができた。自分たちにどういった家族とも話し合いたい」と話した。

「古着deワクチン」の概要は
<https://shop.asahi.com/item/2365.html>。



「この古着は輸出できるかな？」という講師の問いかけに、手で「○」を合図した児童=いずれも我孫子市立新木小学校